



20歳からの 子宮頸がん検診

子宮頸がんは死亡率は低いものの、
20代後半から30代の若年層で
急激に**増えている**がんです。



早期では症状はほとんどありません。
進行すると月経時以外の出血や茶褐色や血の混じったおりものなどが現れます。

検診内容

対象

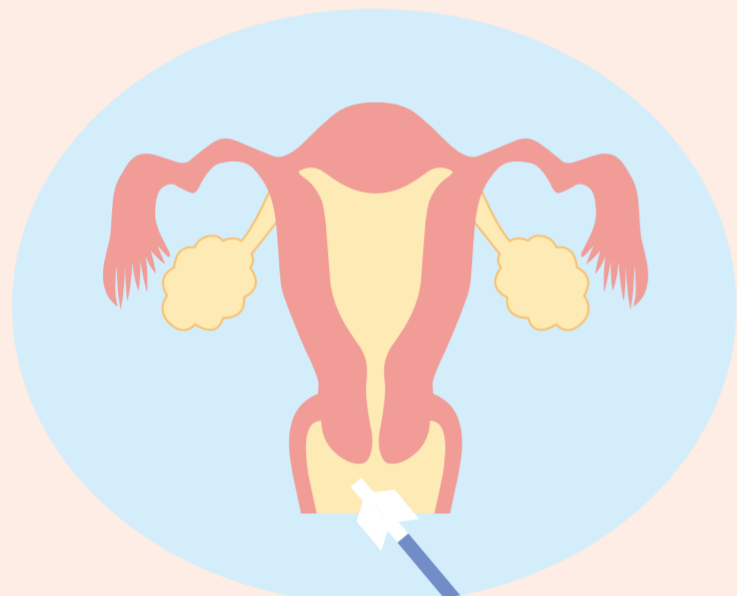
20歳以上の女性

検診間隔

2年に1回

検査内容

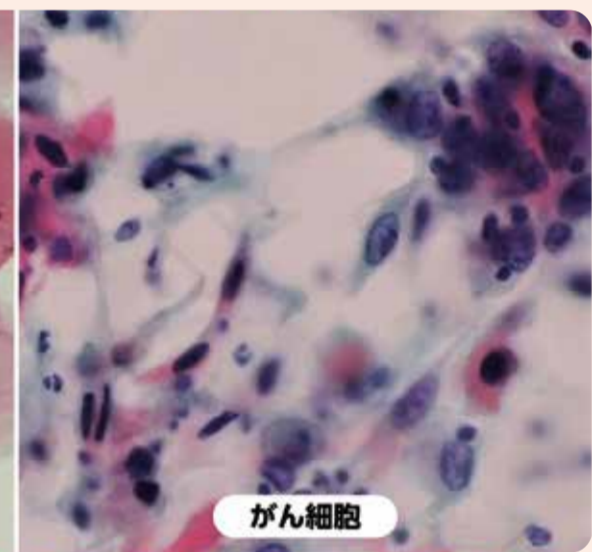
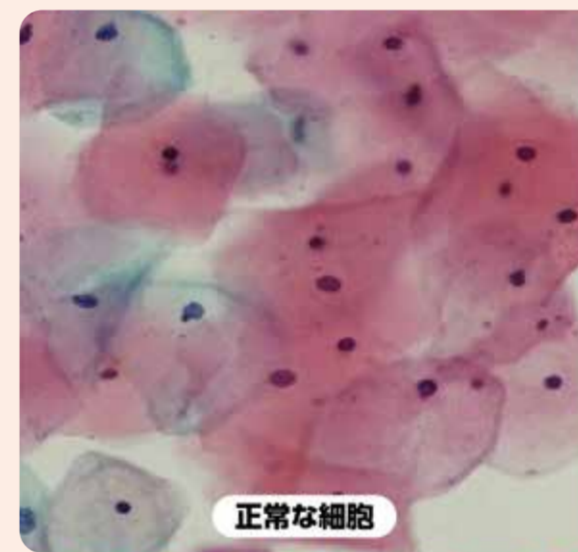
問診・視診・内診・細胞診



専用の器具で子宮の入り口の
細胞を採取します。



採取した細胞は顕微鏡で診断をします。



市町村のがん検診は国の指針に基づいた検査方法や判定で実施しています。

精密検査

検診で精密検査となった場合には、必ず医療機関で精密検査を受診しましょう。

検査内容

HPV検査・コルポスコープ・組織診



＝ TOPICS ＝ HPVをご存じですか？

子宮頸がんの多くは、HPV(ヒトパピローマウイルス)への感染と関連しています。
その多くは、自然に排除されますが、ごくわずかですが感染が
長期化(持続感染)して子宮頸がんにつながる場合があります。
そのため、定期的ながん検診の受診が重要です。

